

平成28年度第1回広島市環境審議会 議事要旨

1 日時

平成28年4月6日（水） 午前10時～正午

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室

3 出席委員

岡田 光正（会長）、田中 純子（副会長）、粟屋 仁美、大下 房子、大原 裕二、沖本 英里、寒川 起佳、戸田 真紀、中城 秀典、中西 伸介、仁井 孝尚、長谷川 弘、柳下 正治、若松 伸司（以上14名）

4 次第

(1) 開会

(2) 市長挨拶

(3) 諮問

(4) 議事

議題 新たな「地球温暖化対策地域推進計画」の策定について

(5) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

1名

7 会議資料

- ・ 新たな「地球温暖化対策地域推進計画」の策定について（議題）
- ・ 地球温暖化対策に関する国際的枠組み及び法体系等における本市の計画の位置付け（別紙1）
- ・ 新たな「地球温暖化対策地域推進計画」の位置付け（別紙2）
- ・ 現行計画に掲げた目標の達成状況等（別紙3）
- ・ 本市の温室効果ガス排出量（平成25年度確定値及び平成26年度速報値）（別紙4）
- ・ 地球温暖化に関する市民アンケート（別紙5）
- ・ 地球温暖化に関する事業所アンケート（別紙6）
- ・ 広島市地球温暖化対策地域推進計画
- ・ 広島市役所環境保全実行計画
- ・ 広島カーボンマイナス70 - 2050年までの脱温暖化ビジョン -

8 議事要旨

発言者	発言要旨
会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は1件である。議題、新たな「地球温暖化対策地域推進計画」の策定について、事務局から説明をお願いする。
温暖化対策課長	<p>【新たな「地球温暖化対策地域推進計画」の策定について説明】</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> 議題の4ページ目「7 策定スケジュール」にあるように、これから計画について御審議いただくことになるが、今回はその最初なので、委員全員から御意見を頂きたいと思う。
栗屋委員	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策では、温室効果ガスについて数値化をすることになると思うが、何かをすると別のところでマイナスの部分が出るというトレードオフの関係が出てくると思うので、何かもっと大きな、違う枠組み、物差しがないのかと思う。 議題の1ページ目の削減目標の所では、温室効果ガスの排出量を平成2年度の排出量と比較している。平成2年度は、まだパソコンが十分に普及していなかったが、今では、パソコンなどのIT関連の器具が増え、エアコンも、いろいろな所に付いている。便利になって快適になったという社会変化を考えると、CO2排出量という数値での比較には無理があるのではないかと思った。 青い地球を守るためには地球温暖化対策について考えなくてはならないと思う一方で、生活の中で、生きているのがつらいくらい、常に地球温暖化対策に気を付けなくてはならないというのも、本来の目的やあるべき姿とは違ってくるのではないかと思う。それで、何かもっと大きな枠組み、上位の概念というものを打ち立てることができればよいなと思った。 市からの要請ではなく、私たち住民が自発的に環境や温暖化のことを考えていくようになればよいと思う。 事業所アンケートの問10で、社員個人の行動ではなく、企業としてどういった取組をしているかということに重点を置いた質問になっているのは興味深いと思った。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 今回の計画では、短期目標を設定し、今後5年くらいかけて、温室効果ガス排出量をどのように削減していくのかを示すことになるが、その成果を分かりやすいものにしていきたいと考えている。また、中長期的視点として、今の快適な生活を維持しつつ、どうしたら地球にも優しい環境が作れるのかということを考えていきたい。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> 本市の広島カーボンマイナス70というビジョンでは、中長期目標を平成2年度比で示しているが、国の目標は、長期目標については平成2年度比、中期目標については平成25年度比となっているので、今回の計画の中長期目標の基準年をどうするかということについては、これらを踏まえて検討したい。
大下委員	<ul style="list-style-type: none"> 民生部門、特に家庭部門の温室効果ガスの増加が大きな課題となっている

	<p>と思うが、広島消費者協会では、環境家計簿をつけて、前年度からCO₂がどれほど削減できたのかを把握するという取組を行っている。エコに関心の高い人については、もうこれ以上できないというほどの効果が出ているが、関心のない人は、電気のつけっぱなしや、水を切らずにごみを出すことなどをしていることから、消費者がちょっとした工夫をするようにするという意識改革がとても大事だと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 我々としてもいろいろな機会を設けて、具体的な削減例などの紹介もしているが、誰でもできる身近なことを一つ一つ実行していくしかないのではないかと改めて感じている。 ・ 我々もいろいろな活動を通して、消費者の皆さんに啓発していきたいと思う。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAサイクルの中では、現在は、新しい計画を作るということで、CとAの段階にあるのかなという感じがするが、今日の説明の中では、どのくらいチェックできていて、どの辺りがまずかったのかということが、見えてこない。これから戦略を練る中で、今までやってきたことが良い方向にあり、それをこのまま継続してやればいいのか、それとも、今立ち止まった段階で、根本的な戦略の練り直しが必要なのか、途中、目標値が高まったということもあるとは思うが、その辺の見極めをきちんとしておかなければならない。そうしないと、やることはやったけれども、また目標値に全然届かないという、実効性のないものになってしまうので、計画のチェックの段階で、「だからこの計画にはこれを入れました」というように、なるべくストーリーがよく分かるものに仕立ててほしいという思いがある。 ・ 今回の計画には、従前の対策以外に適応策が入っている。これは、一部敗北宣言をして、ある程度現実を受け入れた上で、今後どういう策を講じていくかということであろうが、この辺の位置付けは非常に難しいと思う。 ・ 選挙権年齢の引下げがあったので、アンケートの回答年齢は、18歳以上にしてもいいと思う。
大原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我々（日本労働組合総連合会広島県連合会広島地域協議会）は、労働組合という立場から、企業や事業者と連携した温暖化対策に今後取り組んでいこうと考えている。また、労働組合の社会的責任においても、組合員が家庭で取り組める対策について、いろいろな方法を使いながら積極的に周知・展開をしていく必要があると考えている。 ・ 広島市には、近隣市町に対して先駆けとなれるよう、策定した計画を確実に実行していただきたい。また、市民に対して進捗状況を分かりやすく情報提供していただきたい。
沖本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適さを追求しながら温暖化対策をするには、経済活動・社会活動が、一つのサークルの中に納まるような形になることが望ましいのではないかと思います。 ・ 今気になっていることは、メタン発酵発電である。あまり一般的に知られていないような感じがするが、メタン発酵発電をもう少し広げ、大規模にし

	<p>て、畜産業界で排出される鶏糞や、豚・牛の糞尿、その他野菜くず等、捨てられるごみをもっと活用できるルートに乗せられれば、安全な次世代型の再生エネルギーとしてかなり有効なものなので、なぜメタン発酵発電が広がらないのだろうかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市のエネルギー循環の取組として、ごみ処理の際の燃焼発電、下水汚泥の燃料化についての説明があったが、メタン発酵発電は、せん定木等からも発電ができ、その発電効率は鶏糞や糞尿よりも大きいと企業の資料にもあったので、市においても、もう少しこの辺りに着目していただけないかなと考えている。
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この件については、以前広島市で検討されたことがあると思うので、事務局には次回以降、対応していただきたい。
寒川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな資料が出ており、大変素晴らしいと思う。 ・ あるドキュメンタリー映画の中では、エネルギーと原子力発電について分かりやすく説明がされている。宇宙飛行士が宇宙から夜の地球を見ると、経済が発展している所は非常に明るく、煌々としているが、そうでない所は暗い。しかし、将来、人口が増え、現在は暗い地域も明るくなってきて、エネルギーがもっと使われるようになったときに、そのエネルギーがどういったものにより賄われるべきかとなると、原子力発電が最も有効であろうという映画である。これは、アメリカの大学教授も言っている。宇宙飛行士も、科学についてはまだまだ知らないことがたくさんあるから、技術を使って、地球全体で対応しないと大変なことになるという話をしている。 ・ 広島は、原爆により、原子力発電は怖いというふうにすぐに結び付くが、エネルギーを選ぶ中では、原爆と原子力発電は分けて考えるべきだという話がある。したがって、こういった映画を若い方に見ていただけるよう、広島市に啓蒙の機会を作っていただけたらと思う。 ・ バイオエネルギーというのは、木材は燃やしても植林をするからCO₂排出量はプラスマイナスゼロという考えである。しかし、植林をしないと、CO₂は燃やしただけ出る。山の持ち主としては、植林はすべきであると考えているが、コスト的にできないということもあるので、バイオマスエネルギーが是だといって諸手を挙げて喜ぶのではなく、どのように植林をすべきかということも検討していただけたらと思う。 ・ 木を切って山肌が出ていると、山が崩れて災害が起こりやすいといったいろいろな問題が起こる。そうなるコストが莫大になるので、植林の方が安いと私は思う。 ・ 事務所や家で空調をつけるが、市役所はコンクリートの建物なので、非常に冷たく、空調の設定を強めにしないとなかなか温まらない、又は温度が下がらないということがあるので、市から率先して行動するのであれば、予算の許す限り、木の床を張ると、効果が上がるのではないかなと思う。 ・ 電気自動車が非常に良いというが、電気自動車を作るコスト、電池を作るコスト、電気代が高い。電気は、原子力発電が全部止まっているということ

	<p>で、随分電気代も高くなっており、発電によりCO₂が多く排出されているので、今の状態でいけば、電気自動車がCO₂削減に必ずしも貢献するとは言い難い。電気自動車の方が、トータルでCO₂削減につながるのかどうか、科学的な見地から検討してもらえたらと思う。</p>
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の御意見の点は、資料の方を準備していただきたいと思う。
戸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民アンケートについては、計画を立てるに当たり参考になるとして、毎年行われているということで、いろいろな反省点も踏まえて作られていると思うが、何も分からない人にとっては、アンケートの言葉や数値の意味が分からないと思う。 ・ 先ほど、「ストーリー性がよく分かるものに仕立ててほしい」というお話があったが、そのとおりだと思う。一般的に言われている地球温暖化がどういふものかということ、絵やイラストを使い、身の回りのものに置き換えて説明すると、年配の方や、あまり知識のない方でも分かりやすいと思う。 ・ 事業所アンケートについて、事業所には、食品関係などいろいろな業種があると思う。アンケートの中に業種についての設問があるが、我々生協ではプラスチックごみを減らす取組をしているということもあるので、そういった面で、事業所の種類を分けた質問があってもいいと思った。今からだと大変だと思うが、事業所の持つ取組、特色があると思うので、その辺りを取り上げるのもいいと思う。 ・ 以前はマイカー乗るまあデーというものが毎月22日にあったと思うが、今もあるのか。車が省エネ化してきても、マイカー乗るまあデーを推奨するのか。前はバスの中にも広告があったと思うが、最近はあまり見かけなくなって、そういった意識がなくなっているのではないかと感じるし、自転車の取組もなくなっているように感じる。動きやすい、風の通りやすいまちを目指しているなら、予算は要ると思うが、もう少し自転車の通れるきれいな道づくりを、積極的に進めていき、その取組についてもっとお知らせしていったらどうかと思う。我々（生協ひろしま）もそういったお知らせをしてほしいということがあれば、協力させていただきたい。 ・ 十数年前、生協ひろしまでは、大気汚染に関して、空気を取って調べるといふ取組を行っていた。そういったことで、周りの空気が身近に感じられる、空気を調べるキットのような取組を教えていただければ、資料にある数字そのものより、こういったことを計画しているのだというのが身近に感じられると思うので、そういった動きを教えてほしいと思う。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートについて、用語が分かりにくい箇所には解説を入れているが、さらに、挿絵や用語集を添付するなどの工夫をしたいと思う。 ・ 事業所アンケートについて、事業所別の設問を設けることについては検討したが、過去から連続したトレンドの変化を見ることと、基本的な対策をどう講じていくかの参考にするためのアンケートなので、その点、御理解いただきたい。 ・ マイカー乗るまあデーについては、現在も事業を行っており、広告もして

	<p>いたと思う。マイカー乗るまあデーに関する庁内会議において、その取組の拡充等について言及してみようと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車道については、市長も力を入れている分野であるが、限られた予算の中でどう事業を行うかというのが難しいところである。ソフトの面等で補える部分があれば、今後、計画を作成する中で検討していきたい。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3点ほど申し上げたい。 ・ 1点目は、議題の2ページ目「(3) 対象とする温室効果ガス」に書いてあるものを削減の取組の対象とするということだが、最近の知見として、特に大都市地域では、ブラックカーボンのようないわゆる短寿命気候汚染物質 (Short-Lived Climate Pollutants)、対流圏のオゾン、それを作り出すVOC (揮発性有機化合物 (Volatile Organic Compounds))、NO_x (窒素酸化物) の対策が地球温暖化の対策として重要であるというのが常識になっているので、対象物質を絞った理由が何か、気になった。 ・ 2点目は、地球温暖化という言葉は一般的だが、具体的な影響としては、いわゆる気候変動という形で現れる。例えば異常気象や、ヒートアイランドといった市民の生活に直接関係のある現象として、実際影響が現れるので、そういったものとの関係をもう少し明確にした方が、市民の協力も得やすいような気がする。 ・ 3点目は、いろいろな施策をするに当たっては、交通問題や物流等、県や市をまたぐ広域的な問題があるので、他の自治体との連携が必要である。また、日本でCO₂排出量を下げるよりも、よりCO₂をたくさん排出している外国においてCO₂排出量を下げるような努力をした方が効果的だという話もあり、例えば、海外からの研修を積極的に受け入れて支援をするなどの取組もあると思うので、広域連携や国際協力をきちんと書き込むのが今の時代の計画かなという気がする。
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラックカーボン等について、事務局から説明をお願いします。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定物質については、対象を絞ったのではなく、国から示されている物質を掲げたものであり、現時点でこの対象を広げるとなると、どのように数値を把握するかという問題も出てくるので、少し検討させていただきたい。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず、パリ協定に関しては、もう少し詳しい情報提供をした方がよいと思う。 ・ 次回の審議会までには大分時間があるので、パリ協定採択によってそれまでと変わったことについて、審議会としての共通認識が必要だと思う。 ・ パリ協定採択前までは、国際社会が各国に対し何パーセントいつまでに削減しようということをやっていたが、今回のパリ協定では、各国の実勢、自立に任せるとというのが基本になった。そして、5年置きに、国際会議において本当に気温上昇が2度以内に収まるのか、又は1.5度に収まるのかという厳しいチェックを行い、進捗が遅れていたら、お灸を据えろといった発想である。お互いにけん制しながら温室効果ガスの削減を全くやらないか、又は先頭ランナーとして積極的にやるのか、これから日本がどういった道を通

るのが、今問われている。そういう中で、当面の対策ももちろん大事だが、今回のパリ協定では、世界各国に対し、当面の対策に先立ち、2020年までに長期的な戦略を必ず作って提出せよと言っている。それぞれの国が温暖化、低炭素社会という観点について、どうするのかというのをまず先に作ることを義務付けられていることを頭に置いておかないといけない。

- ・ 市長は、長期的に広島というものをどういう低炭素の都市にするのかということについて言われていたが、資料では、当面、2020年までの短期的なものを作るというふうに感じられる。パリ協定で求められているものは、長期的に一体どうするのかというのが先にあるものを見据えて、ファーストステップとしての5年間をどうするのかという発想だと思うが、先ほどの事務局の説明では、5年間があって、ついでに長期も考えるといった言い方になっていたように受け取れたので、そうであれば、考え方をもう一度整理した方がよいのではないかと思う。
- ・ 現在、国では、パリ協定を受けて日本の戦略作りについての議論をしており、7月までには何か出てくると思うので、その辺りをもう1回整理した方がよいと思う。
- ・ 国に気候変動長期戦略懇談会というのがあって、その提言が平成28年2月26日に出ている。提言では、長期的に、パリ協定を踏まえた低炭素社会にするためには、相当思い切った頭の転換、覚悟が必要であるということが強調されている。特に、地域において、都市計画や地域計画といった方向性を一旦決めると、基本的に30年から50年間はその計画の方向性が続く。時間が掛かる大きな投資をすると非常に長期にわたるが、長期にわたるものほど早い段階から先を見通したインフラ投資の在り方をよく考えなくてはいけないということが強調されている。インフラ整備は国だけでなく、地方でも地域独自のものがあるので、非常に重要だと思う。
- ・ 今回の新計画と、パリ協定を踏まえた新たな戦略というものの関係性をどうするのかという辺りが気になる。
- ・ 事業者アンケートについて、戸田委員への回答として、過去のアンケートの回答があるからおっしゃっていたが、アンケートで聞いているのはどちらかということ、事業者がエネルギーを使う立場に立って、どれだけエネルギーを節約しているかという質問に徹している。事業者は、製品を作ってサービスを提供しているので、低炭素な製品を優先的に作っていますかというように、製品サービスのデザイナーとしての事業者の取組を聞くべきであるし、そういった質問に対する回答を、広島市が今後地域で大学・研究機関、企業群、ビジネス群と組んでモデル事業等を行う場合の基礎資料として用いるという戦略がよいのではないかという気がする。
- ・ 市民アンケートについても、市民を消費者という立場で聞いているのか、生活者という立場で聞いているのか、有権者として、政治家若しくは行政に対して一体何を望んでいるのかと聞いているのか、又は労働者として聞いているのかという、ただ市民アンケートといっても、聞き方の視点を1回整理

	<p>して項目を見ていただくと、結果が計画に反映できるのではないかと思います。</p>
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの内容については、再度検討したい。 ・ パリ協定については、柳下委員御指摘の資料も含め、次回の審議会で改めて、説明できるような準備をしたいと思う。 ・ 中長期的な目標、短期的な目標、この計画そのものをどういう位置付けで作り上げていくかということについて、本市としては、カーボンマイナス70という現在ある中長期計画自体を見直していこうという基本的な考え方を持っているので、これを、柳下委員の御指摘を踏まえた上で、短期的な目標につなげていく。長期の目標がある中で、今この5年間何をやっていくかという視点を持ちながら新たな計画を作っていきたいと考えているので、この点については、骨子等を整理する中で、いろいろな御意見を頂けたらと思う。
仁井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の温室効果ガス排出量の中で、中国電力の二酸化炭素の排出係数の推移というものがある。これについては、電力の自由化になり、数値が変わってくる可能性があるのではないかとすることを危惧している。排出係数が変わってくると、温室効果ガス排出量に深く影響が出てくる可能性があるのではないかと懸念している。 ・ 一般家庭における電力の消費等に伴うCO₂排出についてのカウンタープランについて、一つの提案としては、小学生に夏休みの宿題等で、ごみの排出状況や自動車の使用について、シールを貼って達成状況を明らかにさせるというようなことをすれば、仕事などにより、高い省エネ意識を個々で持つことが難しい大人に比べ、家庭内で多少効果が上がるのではないかと思います。 ・ 近年高齢化が進んでおり、高齢の方は、医療関係だと、入院してもすぐ家庭の方に帰すというパターンになっているが、核家族のような状況の中では、高齢者はいったいどこで過ごしたらいいのか。建物内にいる場合はエアコンを付けたり、テレビを付けたりするが、そういった方々がどこで過ごしたらCO₂を削減できるのか。例えば、私どもの地域でいえば、スーパーに午前中に行っているよとか、地域の集会所の1か所に集約しているよ、又は公民館に行っているよといったことがあるので、そういった所で、自分が過ごす環境を集約して、電気やガスをなるべく使わないという方向で考えていただければと思っている。 ・ 中国などの周りの国々、もっと近く言うと市行政、市域とその近隣の地域は、大きく絡みがあると思う。広島市としてはコンパクトシティ化をして、効率の良い社会を作っていければいいと思っているだろうが、その近隣自治体とのパイプ、環境問題との照らし合わせということについても御検討をお願いする。 ・ 以前よりも緩和はされたが、交通渋滞がある。車が渋滞すると、排気ガスの排出が非常に増えるので、以前は信号機を少しずらしながら、渋滞をなくしていくという方法を取られていたと思うが、それについても重点地区をテスト的に作っていくという工夫をお願いできたらと思う。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排出係数については、市には地球温暖化対策に関する条例があり、広島市

	<p>域に電気を供給している事業者については、排出係数を届け出てもらおうということになっている。これを活用し、自由化になってもある程度市域内に電力を供給する事業者を把握し、どれくらいの排出係数を計画し、結果どうなったかということ把握していきたい。排出係数が高い時には市としても御意見させていただきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生に対する教育については、以前カーボンマイナス70を策定したときに、小学生への教育が大切ということで、夏休みに、エコチャレンジという名称で、学校を通じて児童にシートを配布し、取組目標と結果を提出させている。この取組は、市内全ての小学校で実施している。また、エコチャレンジに併せて、副読本も出している。取組がようやく子どもたちの中で定着してきたので、もうしばらくするとその取組の効果が現れてくるのではないかと考えている。 高齢者については、本市としても仁井委員がおっしゃるような方向へ誘導したいと思っているが、なかなかまだ周知徹底ができていないため、どのような声掛けをしたらいいかということを考えていきたい。 広域連携、交通渋滞については、庁内の専門部署と協議して、どのような取組ができるか検討したい。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> 議題の2ページ「※4 広島カーボンマイナス70に定めた対策の方向性」、特に方向性1に、革新的な対策技術が大規模に導入するとあるが、革新的ということであれば、今研究中や実用化段階といった、まだ実現はしていないけれどもこれからというイメージがあり、中長期的に、いつの段階で大規模に導入できるのかというのが不透明である。 一方で、現在、実現可能で、既に導入されている技術があるので、冷暖房負荷の小さくなるような既存の技術を計画的に導入し、省エネ意識にムラのある消費者、事業者に広く普及させることによって温室効果ガスは削減可能ではないかと私は考えている。 議題3ページの現行計画の評価では、家庭部門、業務部門の温室効果ガスの大幅な増加が起きている。これは主に空調、冷暖房と、人々が長く起きていることによる照明電力の増加によるものである。 議題3ページの新計画の構成イメージの、事務事業部門の所の事務所に係る施策の2行目に、主に現時点で効果的な照明の更新について計画的に取り組む、これは照明をLEDに取り替えるだけというふうにはしか見えない。例えば市役所では、会議室の窓をアルミサッシの一重窓から、樹脂サッシのLow-Eガラスに替えるだけで、この大きな窓面積から逃げる熱、入る熱というのはかなり防げる。加えて、先ほどコンクリートは冷たいというお話があったが、深夜電力を使って、冬はあらかじめ室内に暖気を入れて、蓄熱効果を使って暖めておき、夏は室内にたまった熱を、大きなエネルギーの要らないファンを回して外に排熱しておく。そうすると冷暖房の立ち上がりの際、空調に大きな負荷をかけることを防ぐことができる。その上、蓄熱効果があれば、深夜電力を使うことによってコストも減らすことができるし、昼間の

	<p>大きなピークを抑えられるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> つまり、既存の技術をうまく組み合わせて、それを促進するような建物の改修、新築では元々設備を設置しておくことによって、温室効果ガス削減というゴールに向かって実現できるものはたくさんあるのではないかと思う。したがって、夢のような、ブレークスルーを与えてくれるような技術を待つのではなく、今有効なものを行うべきである。また、現在では情報通信技術が発達しているが、各部屋の適切な空調負荷に対して、それを細かく設定してやる。今この部屋でも、吹き出しから適切な空気を送り出していると思うが、それを負荷に合わせて動力を細かくしてやればその分だけエネルギーの消費量を減らすことができる。今のIoT（モノのデジタル化・ネットワーク化）技術を使えば実現可能になっているので、今使える技術で温室効果ガスを削減することを盛り込んでもらいたい。
<p>温暖化対策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市役所においては、市役所カーボン・マネジメント推進事業という中で、今年度、事業可能性調査を行う予定である。事業可能性調査では、この市役所をどうやったら省エネ性能の高い庁舎にできるかということを経営者と研究したいと考えている。その中で、実際にどこまで省エネ性能にできるかということを検討し、その結果を市民に公開することによって、市民にも省エネに取り組んでいただきたいと思っている。
<p>中城委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新しい計画については、市民にいいなと思ってもらえるようにしたいので、よろしくお願いします。 第三者がチェックするというのは非常に大切なことである。 事業アンケートについては、設備を導入しないかと尋ねているニュアンスが強いというように感じた。もっと企業内で、社員、従業員に環境教育をきちんとやっているか、CO2排出量をきちんと把握しているか、それは電気の使用量だったり、電気代だったり、水道やガスについても把握しているかということ、それからCO2の削減目標を立てているのかどうかというようなところをしっかりと聞いて、ではどれだけ削減しようかということ、目標を立て期日を付けてやっていくような、企業自体が自主的・積極的に取り組んでいけるようなことを誘導するようなアンケートがよいのではないかと感じた。 事業アンケートの5ページの、ISO14001とかエコアクション21とかKESと回答欄に書いてある所で、国際規格のISO14001や環境省が進めているエコアクション21は第三者のチェックが入り、非常に良い制度だと思うので、是非進めていただきたいと思っている。 この回答の中にLAS-E（環境自治体スタンダード）というのがある。私は大阪府交野市のLAS-Eの市民監査員ということで、市民監査に参加したことがある。LAS-Eは自治体の環境マネジメントシステムのことであって、企業が行うマネジメントシステムではないので、ここに項目が入っているのはおかしいのではないかと思う。 広島市においても、市民監査を導入することで、市民の立場で第三者のチ

ェックが入るようなことをやっていっていければいいなと思っているので、L A S - E の監査員として広島市の施設等を監査したいですかという質問は可能性としてあると思うが、事業者がL A S - E に取り組んでいますかと問うのは少し違うのではないかと。

- K E S は広島県内ではあまり普及していないので、まずは国際規格の I S O 1 4 0 0 1 か、環境省が進めており、中小企業が取り組みやすいということで、商工会議所でも進められているエコアクション21などをしっかりやっていただくようなプログラムがよいのではないかと。エコアクション21は、企業が必ずCO2の削減目標を立て、P D C A に取り組むプログラムになっているので、非常に良い制度だと思う。I S O 1 4 0 0 1 ではCO2の削減という義務はないので、企業としては、エコアクション21を進めるとCO2の削減目標が入ってくるのでいいのではないかと。
- また、エコアクション21には、環境活動レポートという、エコアクション21に取り組んでいるところが公表しなければならないといわれているものがあるので、広島の実業者がエコアクション21に取り組む、環境活動レポートを公表して、市民にその中から企業を選んでいただくような仕組みができて、さらに、広島市で良い取組をしている企業があれば、環境活動レポートを審査し、表彰するような、御褒美のようなものがあるとよいのではないかと。
- エコアクションは学校や自治体でも取り組んでいるところがたくさんあるので、事業者だけではなく、学校にも進めていただき、どんなことをやっているかというのを年次レポートにして、公開していただくようなことを進めていくことがいいのではないかと。
- 柳下委員もおっしゃっていたが、事業者の事業の中でのエコ、エコ商品だとか、エコサービスというのがもっとクローズアップできるように、広島のエコ商品の認定制度や、地元企業が頑張ってエコ商品を作っているのであれば、優先的に買ってあげようというような制度があればよいのではないかと。
- 家庭部門と業務部門の温室効果ガス排出量が思うように下がっていない、増えているのが課題だということだが、家庭でも、エコ意識の高いところはどんどん対策が進むが、あまりエコに関心のない市民は下げるのが難しいと思う。職場でエコ活動をやれば、半強制的に職場でエコをやるのだから、この時に家庭でもエコをやってくださいねというふうに、関心のなかった人もエコに向いてくれるのではないかと。エコに取り組んでいる企業に比べると、企業では電気代や水道代が下がってきたが、自宅では使っている水道料金で使っている水道料金が非常に高いのに気づき、家に帰って調べようとか、シャワーを出しっぱなしではないのかとか、そういった意識ができてきたので、エコに取り組んでよかったという話を聞く。については、職場でもエコ、家庭でもエコみたいなことをやっていければよいのではないかと。
- 市民アンケートの方は、広島市の地球温暖化対策地域協議会で行われてい

	<p>るうちエコ診断などを環境省も進めていると思うが、そのような取組で、意識があまりない方にも意識を持っていただくようなことをどんどんやっていければよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESD（持続可能な開発のための教育）を国、環境省・文科省も進めており、実行計画が3月に出たということで、学校の中での環境教育もそうだが、企業の中での環境教育、それから家庭に持ち帰っての環境意識向上につながるような、実行計画がESDの視点でもできたらよいのではないかと思う。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所アンケートの区分において、職員の行動について、会社でも目標を設定するというのは当初考えていたのだが、取りやめたという経緯がある。その理由としては、広島市域の事業所で、ISO14001やエコアクション21といったマネジメントシステムを導入している事業者は1%にも満たないという実態があり、恐らくアンケートでも、実施しているという数値は出てこないだろうと考えたためである。そのため、設問数の削減、回収率の向上を目指して環境マネジメントシステムを導入していますかという設問に集約させたという実情があるので、御理解いただければと思う。
中城委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島商工会議所で、会員の1万社くらいに同様の内容のアンケートをやっておられるのではないかと思う。その中には私が申し上げたことも確か入っていたのではないかと思うので、もし今回設問を集約されるということであれば、商工会議所のアンケート結果を参考にされたりすると良いのではないかなと思う。
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に御意見のある方は承りたい。
柳下委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若干気になることとしては、基準年と比較した家庭部門の排出量の増加、エコアクション21に取り組む企業の少なさがアンケートを送るまでもなく分かるなど、広島市では温暖化問題の対象そのものが固定化されつつあるということである。マクロ的な計画を作り、温室効果ガスを定量化して、排出量取引等をつじつま合わせをすることも大事だが、これからは、地球温暖化対策の取組をいかに定着させるかということに力を入れて、再度地球温暖化対策に取り組む時期ではないかと思う。というのは、京都議定書ができて、2008年から2012年まで排出量削減の義務が設けられ、また、2008年に洞爺湖サミットがあるなど、その頃は日本も温暖化対策の機運が非常に盛り上がった。しかし、3.11があって、それどころではないという雰囲気になり、京都議定書第二約束期間に不参加を表明し、温暖化対策の機運が盛り下がっている。そこで、パリ協定でもう1回再スタートを切ることが大事なんだということで、いかに恒常的に市民、諸団体と連携して恒常的にやっていくのかという辺りをアクションプランの中に入れて、通り一遍のもの、「協力するものとする」、「PRするものとする」などではなく、実態的に有効なネットワークを持っていらっしゃる方の戦略も取り入れて、意味のあることをやっていただいたらよいのではないかと感じた。 ・ 林業の話で、バイオマスの施設を作っても、結局外国から輸入している端材でやっているという話をよく聞くのだが、それでは何のためにやっている

	<p>のか分からない。林業の立て直しには、植林したものをいかに林業として製品化するかを考えて初めて、バイオマスに使う端材や間伐材が出る、というところ辺りまで踏み込まないと、これも絵に描いた餅になって必要なことだけを書くということになるので、そこに第一次産業のことも是非入れるような計画にする必要があるんじゃないかなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イクレイと連携するという話で、国際的に先進的な都市と連携するという話があったと思うが、国際的なところとの連携をどうやって生かしていくかという辺りも、何らかの形で新しい計画に盛り込んでいくことができるというのではという気がしている。
環境局長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆様の御意見をお伺いして、今回のパリ協定では、大きな国にも、自治体にも意味を持った温暖化の対策や取組をしていかなければならないということをしっかり認識した上で、ただ単に呼び掛けに終わるだけではなくて、ある意味義務が課せられているくらいの気持ちでしっかりと取り組んでいかなければならない。すなわち、国、自治体、市民、企業が本腰を入れて、温暖化対策に取り組む、そういった認識をしっかりと持つところの認識、意識改革をしっかりしないといけないという点を踏まえた計画にしていきたいと思った。
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回御審議の中で委員の皆様方からたくさんの御意見を頂いた。 ・ 事務局においては、この御意見を踏まえて、骨子案等の作成に当たっていただくことになる。 ・ この新たな地球温暖化対策地域推進計画の策定については、本日御提案いただいたこの案に従って作業を進めていただくということで御異存はないか。
審議会委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし。
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、基本的には本日御提案いただいた案のとおり進めていただくようよろしくお願いします。 ・ 本日本日予定していた議事は以上である。事務局から連絡事項等あればよろしくお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の審議会は、6月下旬から7月にかけて日程調整を行わせていただきたいと思いますと考えている。
岡田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他にないようであれば、本日の会議を終了する。長時間にわたる御審議、感謝する。